世間の無常を悲しぶる歌一首　并せて短歌

四一六〇番

天地の　遠き初めよ　世の中は　常なきものと
語り継ぎ　流らへ来れ　天の原　振り放け見れば
照る月も　満ち欠けしけり　あしひきの　山の
木末も　春されば　花咲きにほひ　秋付けば
露霜負ひて　風交じり　黄葉散りけり　うつせみ
も　かくのみならし　紅の　色もうつろひ　ぬ
ばたまの　黒髪変はり　朝の笑み　夕変はらひ
吹く風の　見えぬがごとく　行く水の　止まらぬ
ごとく　常もなく　うつろふ見れば　にはたづみ
流るる涙　留めかねつも